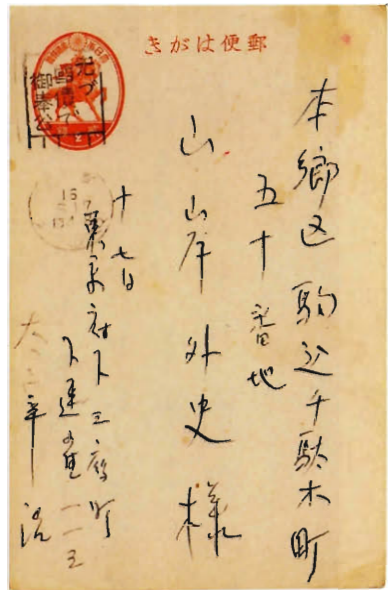


昭和16年（1941年）6月17日（日にち直筆、消印）

抑復。  
 お話申し上げたい事もあるので  
 すけど、僕のはうから本郷へ行  
 くのが順序ですけど、まだ四、五日  
 は、家をあげられないうちで  
 がして、たいへんすみませんけれど、  
 もし、お仕事一段落の折には、  
 ミニ鷹へ遊びがてら、ぶらりと  
 おいで下さいませんか。  
 中つくりお話ししたいので。

（今秋、お力して書くつもりのお話の題を、  
 「十字架し」盛傷「審判」秋「自画像」  
 などというところ考へておきたい。）



拝復。

お話し申し上げたい事もあるのですが、僕のはうから本郷へ行くのが順序ですけど、まだ四、五日は、家をあけられないやうな気がして、たいへんすみませんけれど、もし、お仕事一段落の折には、三鷹へ遊びがてら、ぶらりとおいで下さいませんか。

ゆつくりお話ししたいのですけど。

不乙。

（今秋、努力して書くつもりの小説の題を、「十字架」「感傷」「審判の秋」「自画像」などいろいろ考へてゐたところでした。

【校異】

拝復〔全集〕→拝復。

あけられない気がして、〔全集〕→あけられないやうな気がして、

〔不乙。〕の位置、「おいで下さいませんか。の下」〔全集〕

→「ゆつくりお話ししたいのですけど。」の次行

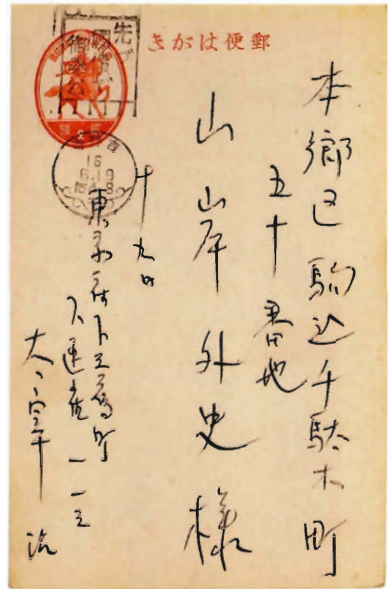
〔丸括弧、「今秋、」から「考へてゐたところでした。」まで〕〔全集〕→〔丸括弧の頭のみ、「今秋、」から「考へてゐたところ

でした。〕の文の行頭に

本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様

十七日 東京府下三鷹町下連雀一三三 太宰治

け返事ありかたうございしました。イソップ。  
 流滞の模様、お察し申し上げます。  
 さいへんをせう。  
 さて、お話をいふのは、兄の Heirat の日  
 取り、うんからいふ所、うんからうなかうと等  
 に就いては相談申したかつたのです。  
 六月五日だかに、井伏さんのお宅へ行つ  
 て、ちよつと相談して来ましたけれど。  
 いろいろきめたのです。私も出る生  
 が無事にすましまして一段落になりました  
 かし、これから兄のけ事に南平心しよと  
 因つてゐるのです。二十五日頃にお逢ひ  
 改めさせろ。  
 赤子は、赤い顔をして眠つてゐます。



【校異】

イソツプ、〔全集〕 → イソツプ

お察し申し上げます。〔全集〕 → お察し申し上げます。

〔改行なし〕 六月五日〔全集〕 → 〔改行〕

〔改行なし〕 いろいろ〔全集〕 → 〔改行〕

兄の仕事〔全集〕 → 兄の御事

【フット】

イソツプ——山岸外史訳『新イソツプ物語』（主婦之友社、昭和十六年八月）。

兄の Heirat——昭和十六年六月三十日、佐藤春夫夫妻の媒酌で鷺谷の料亭・志保原にて、山岸外史の結婚式披露宴を執り行う。

御返事ありがたうございました。イソツプ渋滞の御様子、お察し申し上げます。たいへんでせう。

さて、お話といふのは、兄の Heirat の日取り、それから場所、それからなかうど等に就いて御相談申したかつたのです。

六月五日だかにも、井伏さんのお宅へ行つて、ちよつと相談して来ましたけれど。

いろいろきめたいのです。私のはうも出産が無事にすみまして一段落になりましたから、これから兄の御事に専心しようと思つてゐるのです。二十五日頃に、お逢ひ致します。赤子は、赤い顔をして眠つてゐます。

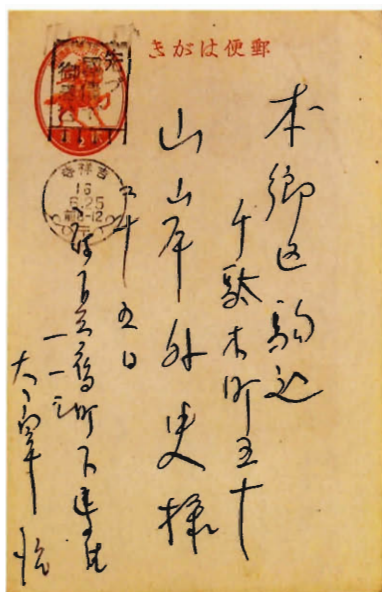
井伏さんは、とても意気込んでゐますよ。

本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様

十九日 東京府下三鷹町下連雀一一三 太宰治

昨夜は火風一たしめました。  
 這ふやうにして、三鷹へた  
 どりつきました。けさは、  
 宿酔はおはたく、佐藤  
 先生宅訪問は、明日に  
 延期する。早く歸します。  
 あいからず。明日またかみ  
 なく参ります。そして、  
 きめてしまひます。





昨夜は失礼いたしました。這ふやうにして、三鷹へ、たりつきました。けさは、宿酔はなはだしく、佐藤先生宅訪問は、明日に延期する事に致しました。あしからず。明日まちがひなく参ります。そして、きめてしまひます

本郷区駒込千駄木町五十 山岸外史様  
二十五日 府下三鷹町下連雀一一三 太宰治

【校異】

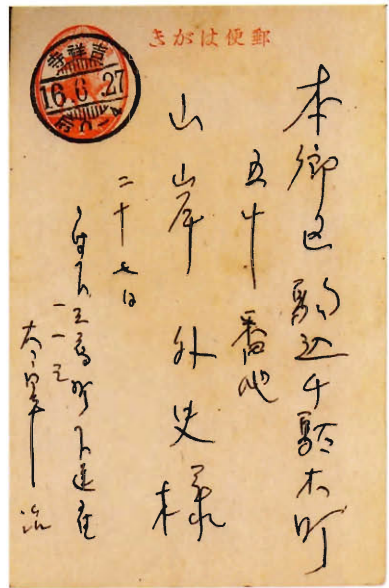
きめてしまひます。(全集) → きめてしまひます

【ノート】

佐藤先生宅訪問——山岸外史の結婚式での仲人を依頼する件。

昭和16年(1941年) 6月27日(日にち直筆、消印)

昨夜は快れたしな。し。  
 万中するし。下さ。井伏さんあ  
 運送かまぬ。す。二十九年  
 に兄が清水町へおらつしゃる  
 と都合よろしき日。あつしゃつて  
 おますか。どうしますか。二十八日  
 の夜なら。あるひは井伏さん。あつ  
 しゃるな。か。も。知。れ。な。い。で。も。そ。れ。は  
 兄の都合よろしき様に決定下さい。



昨夜は失礼いたしました。

おゆるし下さい。井伏さんから速達がまゐりまして、二十九日に兄が清水町へゐらつしやると都合よろしき旨、おつしやつてゐますが、どうしますか。二十八日の夜なら、あるひは井伏さん、ゐらつしやらないかも知れない。でも、それは兄の御都合よろしき様に御決定下さい

本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様  
二十七日 府下三鷹町下連雀一一三 太宰治

【校異】

(改行なし) おゆるし下さい。(全集) → (改行)  
いらつしやると(全集) → ゐらつしやると  
いらつしやらない(全集) → ゐらつしやらない  
御決定下さい。(全集) → 御決定下さい

【フート】

清水町——井伏鱒二宅。杉並区清水町二十四番地。

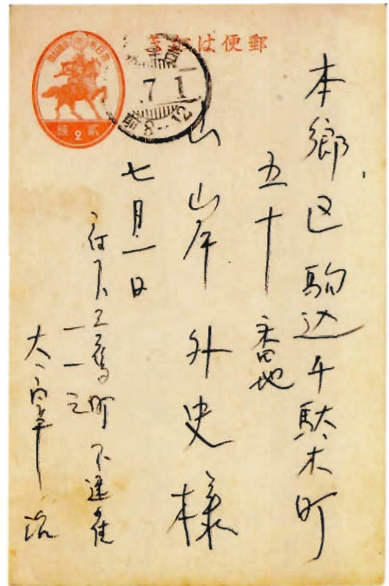


昭和16年（1941年）7月1日（月）直筆、消印、年は推定

拝見。

昨後は、ほんたうに、おめをたう。  
野村君の書生なので、行きとどかす、  
決しな事、あつたと思ひますか、  
その矢、は、どうか、至情にめんじて  
おゆるし下さい。

人曾計の一端にも、と思ひ五十円ばかり、  
り、懐中して行つたので、すけぬと、それ  
では、之は、こんどね、ちうで、た妻を、  
招待し、時に、金部、便は、せて、たき、  
ます。奥さん、よろしく。  
お仕事、が、すつかり、すんね、頃には、ゆつくり、  
あそび、においで下さい。



【校異】

拝啓〔全集〕 → 拝啓。

どうか〔全集〕 → どうか、

それでは、〔全集〕 → それでは

奥さんに〔全集〕 → 奥さんに、

フート

昨夜——山岸外史、佐藤やすの結婚披露宴。太宰はその裏方を務めた。

拝啓。

昨夜は、ほんたうにおめでたう。野暮の書生なので、行きとどかず、失礼な事もあつたと思ひますが、その点は、どうか、至情にめんじておゆるし下さい。

会計の一端にも、と思ひ五十円ばかり懐中して行つたのですけれど、それでは之は、こんど私たちで御夫妻を御招待した時に全部使はせていただきます。奥さんに、よろしく。お仕事が、すっかりすんだ頃には、ゆつくり三鷹へもあそびにおいで下さい。

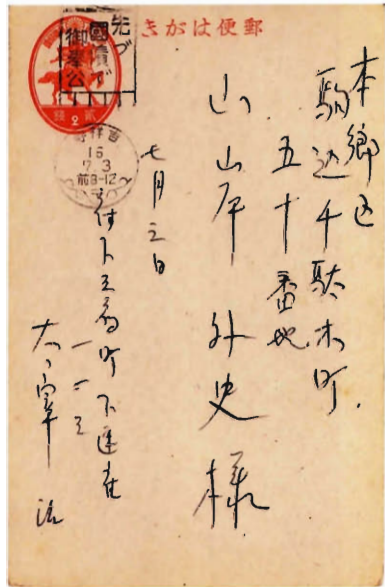
本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様

七月一日 府下三鷹町下連雀一三 太宰治

昭和16年（1941年）7月3日（月）日直筆、消印

母へ

けい、ねいのけい紙をいたたき、いふ箱しました。  
 ち。送分のあまきで、いたみいりました。  
 ねは、つまらぬい後輩です。これから見に、  
 何かと助けられて行く事と思ひます。  
 ち、ねへあつたの事は、兄のけい仕事次第  
 だ。別においそぎの必要も無...と思はれます  
 ず。いふ送にて四股を伸ばして休息なさる  
 のも必要と思ひます。（ママママと呼んで...）  
 といふけい紙の一面所、眼を執くちりました。  
 本堂に、よかつた。兄のけい教育が、よかつたのですよ。  
 三つへは、いつでもよいのです。七八日、九、十日で  
 も、もつと後で。へ佐藤井伏西先生へは、私から昨日  
 礼状を出して直さしました。私、けいから立園匠者へ行きます



拝復。

御ていねいの御手紙をいただき恐縮しました。過分のお言葉で、いたみいました。

私はつまらない後輩です。これから兄に、何かと助けられて行く事と思ひます。

三鷹へおいでの事は、兄の御仕事次第で、別においそぎの必要も無いと思はれます。家庭にて四肢を伸ばして休息なさるの必要と思ひます。(ママ、ママと呼んで……)といふ御手紙の一箇所、眼が熱くなりました。本当に、よかつた。兄の御教育が、よかつたのですよ。三鷹へは、いつでもよいのです。七、八日でも、九、十日でも、もつと後でも。(佐藤、井伏両先生へは、私からも昨日礼状を出して置きました。)私は、けふから歯医者へ行きます

【校異】

拝復。〔全集〕 → 拝復

脱文(「必要も無いと思はれます。」の後)〔全集〕 → 家庭にて

四肢を伸ばして休息なさるの必要と思ひます。

行きます。〔全集〕 → 行きます

【フート】

ママ、ママと呼んで……——山岸外史『人間太宰治』には「新妻ヤス子のことを先妻の三人の遺児が、すぐ慕ったということである」とある。

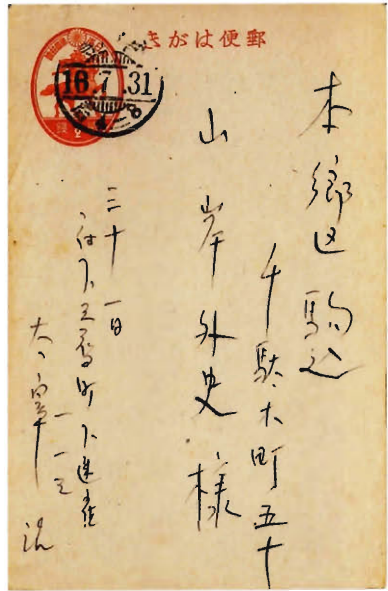
本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様

七月三日 府下三鷹町下連雀一―二三 太宰治

柳 俊。

先日は、まことに快體いたしました。  
 また、このたびは、半紙を、拝誦して、  
 思はずニヤリと、會心々微笑を禁じ  
 得ませんでした。それにしても、それは  
 又、ひどかったですね。夏夜の快  
 談(怪談)と書くつもりでしたのに、つい  
 快談と書いてしまひました。来、越  
 の様式が、全く、新型で、やはり、新  
 人らしい、爽快な感じが、しました。  
 いづれまた、興さきに、よろしく。





拝復。

先日は、まことに失礼いたしました。また、このたびは御手紙を拝誦して、思はずニヤリと会心の微笑を禁じ得ませんでした。それにしても、それは又ひどかつたですね。夏の夜の快談（怪談と書くつもりでしたのに、つい快談と書いてしまひました）乗越しの様式が全く新型で、やはり新人らしい爽快なものを感じました。いづれまた。奥さまによろしく。

本郷区駒込千駄木町五十 山岸外史様  
三十一日 府下三鷹町下連雀一一三 太宰治

【校異】

拝復〔全集〕 → 拝復。

また〔全集〕 → また、

（脱文。「それにしても、」の後）〔全集〕 → それは又ひどかつたですね。

（改行なし）いづれまた。〔全集〕 → （改行）

昭和16年(1941年) 8月26日 [日にち直筆、消印]

いふさあ申してゐるやうす。

旅に出るは事するつもりで居るよし

ちいさな故郷の老母が、ちいさな衰弱

してゐるその事で、知人に連れられ

て、こつりり故郷へ老母をよこすに

行きます。十年振りでありました。

故郷のころは人に逢ひました。ちい

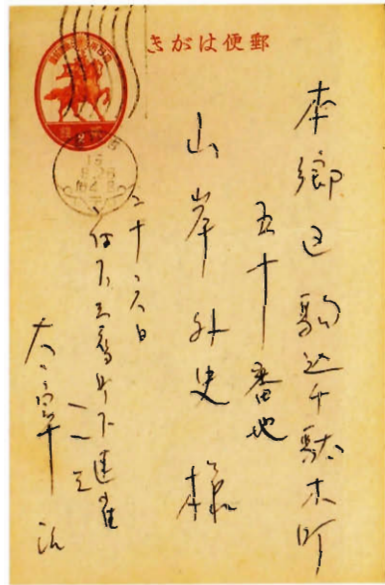
へん疲れて、昨日かへりやうす。仕事

をしなければならぬ。疲れの

なほり功第。また明日にでも旅に

出るつもりです。行先は、まだ決まらな

い居るやうです。九月には、お母様へお



【校異】

あひました。〔全集〕——ありました。

【フート】

知人——北芳四郎。品川区大崎で洋服仕立て業を営む。津島家とのつながりから、太宰の東京での世話人となる。

こつそり故郷へ老母に逢ひに——義絶中だったため、叔母キエ宅に泊まり、母たねを見舞う。

御ぶさた申して居ります。

旅に出て仕事するつもりで居りましたが、故郷の老母が、たいへん衰弱してゐるとの事で、知人に連れられて、こつそり故郷へ老母に逢ひに行きました。十年振りでありました。故郷のいろいろな人に逢ひました。たいへん疲れて、一昨日かへりました。仕事をしなければならぬので、疲れのなほり次第、また明日にでも旅に出るつもりです。行先は、まだきまつて居りません。九月には、また本郷へ遊びに行きます。

本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様

二十六日 府下三鷹町下連雀一一三 太宰治

昭和16年（1941年）9月8日〔消印〕

四  
五

一 所部のところで、なした親分、富美、出来、つ  
ま、す、た、所部と、な、た、た、所部の細君から、  
貴人によろしくと、な、つ、た、た、た、富美、そのうち

5/4  
P

政

金

あゝと  
まし  
た。

ヤツと

三才

借<sub>り</sub>し<sub>て</sub>い<sub>ふ</sub> **借** <sub>る</sub> <sub>す</sub>

よー機に  
おとけ

今

は  
し  
り

六

校

の  
分

あ  
ふ  
け

4454

未也

世情

方さひ

く  
く  
く  
く


7  
2  
3

五

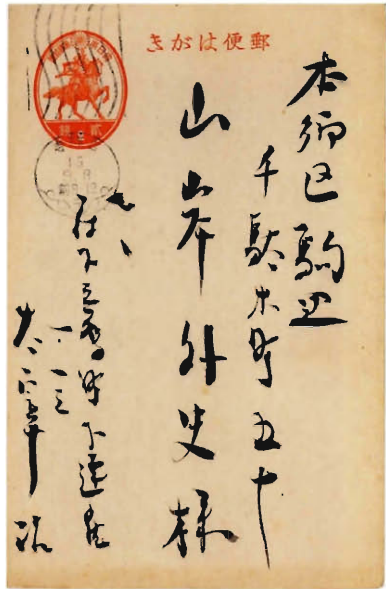
62

35

六



しなす



拝啓、

昨日、旅行から帰りました やつと三十枚書きました  
今月はもう六十枚くらゐ書かなければいけません 世情が  
きびしくなつてゐるやうで書くのもくるしくなりました、  
いづれ御伺ひいたします

阿部のところで写した記念写真、出来て来ました。阿部と、  
それから阿部の細君から、貴兄によりしくと言つて来まし  
た。写真そのうちおとどけます。それから、先夜、蛇の目傘  
お借りして、そのままになつて居ります。よい機に、おとど  
け致します

本郷区駒込千駄木町五十 山岸外史様

府下三鷹町下連雀一三三 太宰治

【校異】

拝啓〔全集〕 → 拝啓、

帰りました。〔全集〕 → 帰りました

(改行) やつと三十枚〔全集〕 → (改行なし)

書きました。〔全集〕 → 書きました

書かなければいけません。〔全集〕 → 書かなければいけません

(改行) 世情が〔全集〕 → (改行なし)

くるしくなりました。〔全集〕 → くるしくなりました、

御伺ひいたします。〔全集〕 → 御伺ひいたします

記念写真、〔全集〕 → 記念写真、

それから先夜、〔全集〕 → それから、先夜、

おとどけ致します。〔全集〕 → おとどけ致します

【フート】

もう六十枚くらゐ——「風の便り」を指す。

阿部——阿部合成。青森中学の同級生で洋画家。山岸とは太宰の家で知り合い、その後井伏鱒二宅でも出会い意気投合する。



拝見。

先日は、ごご失礼。おゆるし下さい。

ただいまは、御本をいただきました。

ありがとうございます。いすした。けふ、これ

から拝見するつもりであります。

たのしみです。

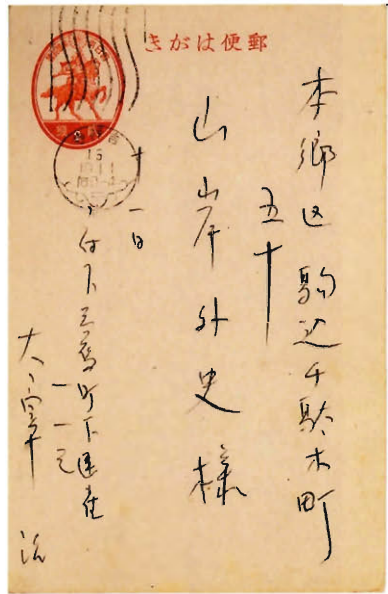
また一仕事すまいましたら、本郷へ

遊びに行きたいと考へて居ります。

では、いづれゆつくり。

あ。

社内にもよろしくお伝えします。



【校異】

拝啓〔全集〕→拝啓。

（改行なし）不二。〔全集〕→（改行）

【フート】

御本——この年、十月までに山岸外史は、『煉獄の表情』（朱雀書林、五月）、『希望の表情』（実業之日本社、六月）、『新イソップ物語』（主婦之友社、八月）を上梓している。そのいずれかか。

拝啓。

先日は、いろいろ失礼。おゆるし下さい。ただいまは、御本をいただき、ありがとうございました。けふ、これから拝見するつもりであります。

たのしみです。

また一仕事すみましたら、本郷へ遊びに行きたいと考へて居ります。

では、いづれゆつくり。

御内にもよろしく願ひます。

不二。

本郷区駒込千駄木町五十 山岸外史様

十一日 府下三鷹町下連雀一二三 太宰治